

令和6年9月26日

第2回 中津市学校のあり方検討委員会会議録

第2回 中津市学校のあり方検討委員会 会議録要旨

日時：令和6年9月26日（水） 18：30開会

場所：中津市教育委員会 教育委員会室

出席者：伊藤委員、今長委員、奥村委員、藤原委員、本田委員、相原委員、新谷委員、高山委員、
桑嶋委員（9名）

事務局：古口教育長、黒永部長、尾家課長、朝吹課長、秋吉主幹（5名）

1. 開会

○黒永教育部長より開会の挨拶をおこなった。

○事務局より出席員が11名中9名であり会議が成立する旨を報告（中津市学校のあり方検討委員会設置要綱第6条第2項）

2. 委員長あいさつ

○伊藤委員長より挨拶を行った。

3. 議事

(1) 事例紹介

○伊藤委員長より資料に沿って、大分市を事例に、小規模特認校、小中一貫教育校、義務教育学校、背景と根拠、小中一貫教育のメリットとデメリットについて説明をおこなった。

○事務局より資料に沿って、国における手引の学校規模の適正化に関する基本的な考え方、統廃合に関して留意すべき点を説明した。

《発言する者なし》

(2) 論点整理

▶論点の整理の考え方

○事務局より資料に沿って、論点整理の考え方を説明した。

▶学校規模のあり方の検討における目的・考え方について

○事務局より資料に沿って、前回の検討委員会では出された意見、論点として意見をお伺いしたい事項について説明した。

○A委員：碩田学園のような学校が中津市にできれば非常にいいと思う。深耶馬溪中学校が廃校となる最後の年は、中学生5人、小学生5人、教員5人で、運動会などは地域の方が一緒になって盛り上げていただいたが、毎日の授業の中で、教員が専門でない複数の教科を担当することとなり、子どもたちにとって十分な教育ができたかどうかと思っている。統廃合時の保護者の意見は生徒がたくさんいるところで部活動をさせたいという思いであったが、地域は学校がなくなるという思いで、全く別であった。適正規

模の考え方は、ある程度の人員とかそういった子どもたちの数があつた方がいいと思うが、碩田学園のような施設となると財政的な部分やスクールバス等の問題が心配で、きめ細かなところまで詰めた上で統合の話を進めていただきたい。

○B委員：子どもが保育園から小学校へ上がった時、そのギャップを自分自身が感じていた。中学校になるともっとどうなるんだろうという不安がある。今日、小中一貫教育の話を聞き素晴らしいと思い、また、すごく勉強になった。現実的には難しい面もあると思うが、子どもたちが1番いいように、スムーズに勉強ができるのであれば、そういう考え方もいいのかなと思った。

○C委員：旧下毛の少人数の学級、授業というところだと考えると多様な意見が出ない。人数が多い方が、学習も楽しく、生活も生き生きとした感じがする。ただ、地域との交流や、少人数だからこそできる学習もあるので、どちらがいいのか一概には難しいが、授業と子どもの生活から見れば、ある程度の人数はいた方がいいかなというふうに思う。

○D委員：小規模には小規模の良さも確かにある。

▶通学路・通学支援について

○事務局より資料に沿って、前回の検討委員会が出された意見、論点として意見をお伺いしたい事項について説明した。

○A委員：スクールバスについては、必要と考えるが、スクールバスを使って通学する場合は、子どもの体力的な影響や健康面、体調面、体の不自由な子どもの配慮などの観点もいれていただきたい。

○E委員：山国の小学校のスクールバスで通学する子どもは、遠いところで、バスで15分から20分程度かかり、7時30分に集合している。統合となるともっと早い時間になる可能性が増えるので、親にとっても子どもにとっても負担が軽減とはならないなと感じた。

○F委員：委員皆さんの、どこの学校とどこの学校が統廃合してというイメージがバラバラだと思うので、そこは、どう考えたらよいか。

○事務局：この検討委員会は、具体的にどこの地区、どの学校という特定はしていません。意見の総論として、お気持ちや要望など、大きいくくりでとらえていただき、意見を広くいただきたい。

○事務局：特に旧郡部の子どもたちが非常に減ってきており、複式学級が増えていることを課題として捉えている。極端な例になるが、旧郡部で小学校を1つにする、旧郡部で小中一貫校にする、通学のことを考え旧町村単位で小中一貫校にするなど、問題点や考え方をどんどん出していただきたい。その中で逆に見えてくるものや解決する方策など、方向性が見えてくれば教育委員会として大変ありがたいと思っている。いろいろな意見を出していただき、議論を前に進めていきたいと考えている。

▶学校再編に係るプロセス・フロー

○事務局より資料に沿って、前回の検討委員会が出された意見、論点として意見をお伺いしたい事項について説明した。

- D委員：学校再編前、学校再編後の検証については、予算投入するため、必ず必要だと思う。
検証については、事前にしっかりと、どういう指標等で検証するか計画しておかなければならない。
- F委員：今までの経過の中で、保護者の意見集約をしたことがあるのか。
- 事務局：今まで、アンケートという形の意見の聴取はない。以前耶馬溪地区では、地域の方と直接話を重ねてきた経過はある。
- F委員：その中で、統廃合に至らなかった理由はどういう経過でしょうか。
- 事務局：地域が廃れるという意見が一番多かったと思う。それから財政論、学校の運営費を安くするためではないかといった意見。子どもたちのことを中心に置き、児童数の推計も示して話をしたが、当時はまだ人数も多く切迫感というか、保護者というよりは、地域の方からの厳しめな意見が多かった。当時は耶馬溪中学校の校庭に小学校棟を建て小中一貫校で、スクールバスも出すということで提案を行ったが合意には至らず、議会からも地域の意見を尊重するようといった附帯決議をいただいた。
- F委員：これまで統合した学校の、子どもたちや保護者の意見を集約していますか。
- 事務局：柿坂小学校の場合は、地域からの要望により城井小学校へ統合した。保護者の意見は、前の学校の方が良かったと思っている方もゼロではなかったとは思いますが、統合した後には何かしらの問題があったかといわれると、そういったことはなかったと思っている。
- F委員：そのような、具体的な統計を取っているのでしょうか。
- 事務局：取っていない。
- F委員：統廃合した子どもたちの感想はどうであったか。子どもによって違うかもしれないが、知っていれば教えてほしい。
- C委員：子どもによって違うと思うが、柿坂小学校から城井小学校へ統合した子どもたちは、友達がたくさんできて良かったと概ねいっていた。皆が皆そうかわからないが。
- A委員：深耶馬溪中学校から耶馬溪中学校へ統合した子どもたちは、部活の試合に出れて良かった、すぐ友達も仲良くなったということで話があった。深耶馬溪小学校から山移小学校へ統合した保護者からは、このままでは色々な行事ができないよねということを聞いたことがある。残念という気持ちもあるかもしれないが、子どもたちにとって地域の行事は統合先でも同じように取組みを行っているので、そこは解消できると思う。
- B委員：本耶馬溪中学校は団体スポーツが出来ず、野球をしたい中学1年生の3人は三光中学校の野球部に所属している。学校が終わり、保護者が送迎をしている状態であるが、三光中までいけない時には自校で自主トレをさせてもらえないかという話をするが、認められていない。住んでいるところによって、子どもたちの選択肢が狭まることになってほしくない。私たちは好きでこの地域にすんでいるが、自分たちのしたいことができないというのは困る。保護者も日中仕事をしており、他の保護者に送迎を頼まないといけなような状況もあるので、部活を存続させる手段も考えてほしい。保護者の負担が大きくならないようにタクシーやバスの送迎があるとありがたい。

▶跡地の活用

○事務局より資料に沿って、前回の検討委員会が出された意見、論点として意見をお伺いしたい事項について説明した。

○A委員：廃校となった跡地利用で、特筆するような利用があれば教えていただきたい。

○事務局：山国地区、槻木小学校はコミュニティセンターと診療所になっている。東谷小学校体育館は文化財の発掘物の置き場となっていて、西谷は体育館で貸し出しをしている。その他、地域の方がサロンで使ったり、地域の行事の時に利用したりというところが多い。利用方法について、地域の方の要望があれば、中津市公共施設のマネジメント推進委員会において話を進めていくが、要望がない場合は、企業への貸付けや、売却などを検討する流れとなる。

○G委員：旧郡部は水害、土砂崩れなどの災害が発生する。道が遮断されてそこにたどりつくためには、防災ヘリやドクターヘリなどの空からの方法しかないので、そのような活用をしてほしい。

(3) その他

○事務局より、今後のスケジュールについて説明した。

4. 閉会

○黒永部長より、閉会の挨拶を行った。

20時32分 閉会